



平成29年9月～平成30年2月の主な活動報告



女性研究者介護帰省費用補助事業(試行)

女性研究者の仕事と介護の両立を支援するため、介護を目的とした帰省の際、航空券を購入した場合の費用の一部補助を実施しました。
今年度は女性研究者5名を採択し、支援しました。

第2期国際学会派遣費用助成事業及び英文校閲費用助成事業

女性研究者を対象に国際学会等に参加するために必要な旅費の全額又は一部を助成する「国際学会派遣費用助成事業」と、学術雑誌への投稿論文や学会発表用の英文校閲に係る費用を助成する「英文校閲費用助成事業」を行いました。
今年度第2期では「国際学会派遣費用助成事業」3名、「英文校閲費用助成事業」3名の計6名を採択し、支援しました。

第2期研究活動等支援員制度

平成29年度第2期は、教育研究支援に5名、研究支援に17名、計22名の研究者が本制度を利用し、32名の支援員が配置されました。

育児サポート・サービス利用料補助事業 追加募集・追加支援

本学では、教職員の仕事と家庭の両立を支援するために育児支援の一環として育児サポート・サービスを利用する際の利用料の一部を補助しています。
今年度は、追加募集を行い、女性研究者2名を新たに採択し支援しました。また、既に採択されている女性研究者で追加支援を希望する3名に追加で支援を行いました。

大学入試センター試験時及び二次試験時における託児室の開設

平成30年1月13日(土)、14日(日)本学の教職員の仕事と生活の両立を支援することを目的に、大学入試センター試験時における託児室を開設しました。大学本部棟2階の第一研修室を会場に、教職員の子ども7名をお預かりし、「西原町ファミリーサポートきらきら」さんによる保育が行われました。
ジェンダー協働推進室では、2月25日(日)に行われた一般入試(前期日程)においても託児室を開設しました。



今後の予定

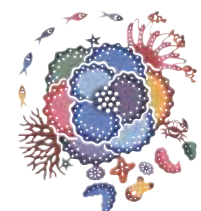
- 第3回「ダイバーシティ推進セミナー」
日 程：平成30年3月14日(水)
会 場：琉球大学附属図書館
ラーニング・commons
- サイエンスプロジェクトfor琉球ガールズ
日 程：平成30年3月24日(土)～25日(日)
会 場：沖縄科学技術大学院大学(OIST)



編 集 後 記



今年度も様々なセミナー、シンポジウム、支援策を実施し、沢山の皆様にご利用・ご参加いただきました。ご協力いただきました皆様、ありがとうございました。来年度も引き続き実施できるよう、スタッフ一同頑張ります。(ふ)
セミナー、シンポ、編集作業etc…ご協力くださった皆さんに、頑張ったスタッフみんなに感謝多謝です。(お)
今年度も事業を通して多くのことを学ぶことができました。改めて、本推進室に関わりました皆さまにお礼を申し上げます。(か)
皆様のご支援・ご協力のおかげで中間報告シンポジウムを無事終了することができました。ありがとうございました。(ひ)



国立大学法人 琉球大学 ジェンダー協働推進室

Gender Equality Promotion Office, University of the Ryukyus

〒903-0213 沖縄県中頭郡西原町千原1番地 大学本部1階 TEL:098-895-8675

E-mail:gender@to.jim.u-ryukyu.ac.jp URL:http://www.gender.jim.u-ryukyu.ac.jp/

うない通信

国立大学法人 琉球大学 ジェンダー協働推進室 ニュースレター Vol.13 2018年3月発行

「中間報告シンポジウム ～女性のリーダーが活躍する大学を目指して～」を開催しました

平成30年2月19日(月)、琉球大学附属図書館ラーニング・commonsにおいて「中間報告シンポジウム ～女性のリーダーが活躍する大学を目指して～」が開催されました。
このシンポジウムは、本学が採択を受けている「文部科学省科学技術人材育成費補助事業 ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(特色型)」(平成27～32年度)について、事業実施期間の振り返りを迎えたことを機に、これまで3年間の事業実施状況と、本学が掲げている数値目標の達成状況等について、学内に報告を行うことを目的に開催されました。
第1部では、女性研究者の活躍促進と、本学の課題でもある女性研究者の上位職登用に関連し、基調講演に日本大学薬学部薬学研究所・上席研究員の大坪久子氏をお迎えして「Beyond the Bias and Barriers 無意識の偏見(Unconscious Bias/アンコンシャスバイアス)を知っていますか?」と題してご講演をいただきました。誰もが持っている“無意識の偏見”がどのようなものであるのか、特に女性研究者の採用や昇進、普段の教育研究活動等における活躍に、どのような影響をもたらしているのかについてご講演いただきました。



クロストークでは、この“無意識の偏見”に関連して、大学としてどのように対応していくべきか、沖縄科学技術大学院大学(OIST)のディルワース マチ副学長(男女共同参画・人材育成担当)からOISTやアメリカの大学の事例をご紹介いただきながら、大坪久子氏、本学の花城梨枝子理事・副学長と、「多様な人材を上位職に登用するためには」というテーマで意見交換を行いました。

第2部の事業実施報告では、ジェンダー協働推進室の喜納育江室長が、女性研究者の在籍比率や採用比率といった数値目標の達成状況、本学がこれまでに行ってきた支援策、そして今後の取組方針について説明を行いました。

続いてのディスカッション「今後の連携・協働による女性研究者支援の推進に向けて～各大学の取組とコーディネーターの役割～」では、鹿児島大学男女共同参画推進センターコーディネータの山口眞理氏、宮崎大学清花アテナ男女共同参画推進室副室長の清水鈴代氏から、本学が自主事業として女性研究者支援を今後も継続実施していくために、どのような工夫が必要なのか、その中でコーディネーターがどのような役割を果たしていく必要があるのかについて、各大学の実施状況などをご紹介いただきながらヒントとアドバイスをいただきました。

沢山の教職員、研究者の方々にご参加いただき、女性研究者支援への関心の高さを感じると共に、他機関の様々な好事例から今後本学が進めていくべき取組等について理解を深めた、大変有意義な機会となりました。

かなさん介護セミナー 連続講座を開催しました



平成29年12月から平成30年2月にかけて、百次由美子氏(保健師、ケアマネージャー/宜野湾市地域包括支援センターふれあい)を講師にお招きし、介護保険制度や介護サービスなどについて連続講座を計6回開催しました。

本セミナーは、本学の女性教員、研究者のワークライフバランス、仕事と介護の両立支援を目的に今年度初めて開催しました。

1回目の講座では、家族に介護が必要となったらどうするか、介護保険の仕組み、利用方法などをお話いただき、2回目では介護保険以外のサービス、介護を支える地域の仕組みについてお話しがありました。百次氏からは、介護保険制度は役所がその人に応じた制度を提供する、従来の措置型ではなく、あくまでも契約型の福祉制度であり、情報がカギとなる。制度の仕組み、どのような地域資源があるのかなど、日ごろから情報収集を、とお話がありました。

3回目は介護予防をテーマに、特に認知症予防に効果があるとされているスクエアステップに参加者と一緒に行いました。同ステップのインストラクターでもある百次氏からは、現役世代は介護をする側という意識が高いと思うが、いつかは老いて介護される側になる日がくる。転ばない体づくりは認知症予防にも最適とアドバイスがありました。

「ダイバーシティ推進トップセミナー」を開催しました

平成30年1月23日(火)に琉球大学本部棟第一会議室において「平成29年度ダイバーシティ推進トップセミナー」を開催しました。

本セミナーは、大学運営に関わる管理職員を対象に、女性研究者の採用と育成そして上位職登用に係る取組みを積極的に推進することを目的に行われました。

セミナーには学長や理事をはじめ教育研究評議会評議員等約30名が参加し、講師の大坪久子氏(日本大学薬学部薬学研究所上席研究員)から「Beyond the Bias and Barriers 無意識の偏見ーUnconscious Bias/アンコンシャス・バイアスーを知っていますか?」と題して、誰もが潜在的に持っているジェンダーや人種といった偏見について講演をいただきました。

大坪氏は各種の研究結果を基に「私たちが持つ無意識の偏見を理解し、その働き方を知ること、評価や判断の場で偏見がもたらす負の影響を最小限に止めることができる」とし、同時に「各大学にあった採用のガイドラインを作成することが重要」とであると述べられました。アンコンシャス・バイアスを意識し、システムを構築することで女性研究者の増加や、上位職への登用が可能であるなど、データに基づく講話に参加者は真剣な眼差しで聞いていました。



かなさん介護セミナー講演会を開催しました



かなさん介護入門セミナーでは講演会も平成30年2月5日(月)に開催しました。介護・暮らしジャーナリストでファイナンシャルプランナーでもある太田差恵子氏をお招きし、遠距離介護や、介護にかかるお金について、その他、介護離職はなぜ避けなければならないのか、具体的な仕事と介護の両立プランについてお話しをいただきました。中でも、介護にかかるお金については「介護資金は親のお金でプランニングすることが前提。今後はアラハンつまりアラウンド・ハンドレッド(100歳前後)まで生きることを想定して自身のお金もプランニングを」とのお話にはうなずく参加者の姿も見られ有意義な講演となりました。

英語でおこなうリーダーシップ研修 「女性研究者のための効果的なコミュニケーション術」を開催しました

平成30年2月15日(木)、16日(金)の2日間、琉球大学本部棟第一研修室において、平成29年度英語でおこなうリーダーシップ研修「女性研究者のための効果的なコミュニケーション術」を開催しました。

当日は、ルミナラニングジャパンよりエリザベス・ハドナー氏を講師にお迎えし、本学の女性研究者10名が参加しました。

研修では、参加者が事前に回答したアンケートデータを元に作成されたコミュニケーションのプロファイルを中心にロールプレイなどがおこなわれ、リーダーとして自分自身の強みや特性を活かしたコミュニケーションの在り方について学びました。

参加者からは「2日間のセミナーを通して人生が変わったような気がしました」、「セミナーで学んだことを今後に生かしていきたい」といった感想をいただきました。



ポスターができました

本学のアクションプラン、第3期中期目標、中期計画の指標に基づき、女性研究者のさらなる在職比率の向上、上位職への登用を啓発しようと、2つのポスターを作成しました。

各部署にも掲示のご協力をお願いしておりますので、お見かけの際はぜひご覧下さい。



「スキルアップセミナー」を開催しました

第3回「英語論文の書き方」

女性研究者のスキルアップの一環として、英語論文の向上を目的としたセミナーを開催し、13名が参加しました。

参加者からは「論文を書く上で困っていたことが知れた」、「英語論文を書く上でのイロハを知らなかったため、この機会に学べて、研究活動に生かすことができる」、「日本語で書くのとは異なるテクニックが具体的に学べた」といった感想が寄せられました。

第4回「英語論文の書き方 Technical Writing in English」

日 時:平成29年11月24日(金)

講 師:理化学研究所創発物性科学研究センター 小野 義正 氏



第4回「アサーティブコミュニケーション」

女性研究者および女子大学院生を対象に、研究活動に必要な不可欠なコミュニケーションスキル習得のためのセミナーを開催し、13名が参加しました。セミナーでは、アサーティブの考え方や行動をロールプレイを通して学びました。

第5回「アサーティブ コミュニケーション ～言いにくいことを伝える方法～」

日 時:平成29年12月25日(月)

講 師:日下部 絵美 氏(株式会社インソース)

第5回「英語論文の書き方 上級編」

女性研究者を対象に、よりインパクトファクターの高い学術誌への採択率を高めることを目的にセミナーを開催し、12名が参加しました。

講師の小野氏は、時制、冠詞などにおける細部の注意事項から、「日本人英文の脱却ポイント」といった日本人が間違えやすい書き方、レビュー時の査読者対策など具体的な方法論を示しながら講義が行われました。

第6回「英語論文の書き方 上級編」

日 時:平成30年1月26日(金)

講 師:理化学研究所創発物性科学研究センター 小野 義正 氏



第6回「英語論文 プレゼンテーション」

上記の第5回のセミナーに引き続き、二日連続の集中講義として、女性研究者および女子大学院生を対象に、英語による口頭発表の向上を目的としたセミナーを開催し、11名が参加しました。

小野氏は「英語は「息」の言語。リズムとストレス(アクセント)を意識するだけで通じる英語になる」などの発音からポスチャー(姿勢)で変わる印象、決まり文句、質疑応答時の心構えなど、プレゼンテーションにおける多面的なポイントについて講義が行われました。

第7回「英語論文 プレゼンテーション」

日 時:平成30年1月27日(土)

講 師:理化学研究所創発物性科学研究センター 小野 義正 氏

育児介護ガイドブックを改訂しました

平成24年度に発行された「育児・介護等支援ガイドブック」を改訂しました。平成29年3月の育児介護休業法(育児休業、介護休業等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律)の改正に伴う本学規則の変更点を反映させています。冊子を各部署へ配布しており、ジェンダー協働推進室HPへ掲載していますので、ぜひご覧ください。

なお、今後の育児介護休業法の改正等により、ガイドブックの情報と異なる場合があります。詳しい内容につきましては、ご所属の総務担当者にご確認ください。

